

# 大阪・関西万博を契機とした地域への人流波及効果に関する分析

---

## 詳細報告書

---

2026年3月25日（水）発行

株式会社リクルート ジャらんリサーチセンター 研究員 北真理子

神戸大学大学院経営学研究科 藤原賢哉 教授

同志社大学商学部 中岡孝剛 准教授

<u>はじめに.</u>	調査背景・目的	P2
	調査概要	P3-4
<u>1. 大阪・関西万博来場者分析</u>		
	1) 位置情報データからみた、万博来場者の特性	P6-13
	2) 位置情報データからみた、万博来場者の周遊行動	P14-21
<u>2. 大阪・関西万博来場を契機とした地域波及分析</u>		P22
	徳島県 位置情報分析	P23-33
	四国4県比較分析	P34
	滋賀県 位置情報分析	P35-36
	鳥取県 位置情報分析	P37-38
<u>考察</u>		P39-40

【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】

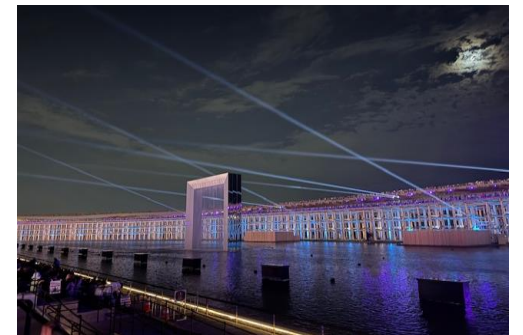
- 本資料は、株式会社リクルート『じゃらんリサーチセンター』の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。
  - 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。  
事前に当社までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮頂く場合もございます、あらかじめご了承ください。
- ※問い合わせ先  
[メディア・報道機関の皆さま]株式会社リクルート 広報担当 <https://www.recruit.co.jp/support/form/>  
[その他企業・自治体・一般の皆さま]じゃらんリサーチセンター事務局 E-mail : [jalan\\_rc@r.recruit.co.jp](mailto:jalan_rc@r.recruit.co.jp)
- 本資料は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料を利用する場合にはお客様の判断で利用してください。また、資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

## 調査背景

2025年に開催された大阪・関西万博は、コロナ禍以降、日本国内で開催された最大級の国際イベントのひとつであり、開催地周辺にとどまらず、全国の人流や旅行行動に影響を与えた可能性がある。

本調査では、株式会社ブログウォッチャーが保有する日本最大級の位置情報データを用い、観光・周遊の視点から、万博来場者が、どのような移動・周遊行動をとったのかを分析した。併せて、万博を起点とした人流の広がりや地域への波及効果にも着目した。

なお、本調査は、神戸大学大学院経営学研究科の藤原賢哉教授、同志社大学商学部中岡孝剛准教授との共同研究として実施したものである。



## 目的

- ①大阪・関西万博への来場を契機として生じる人々の移動・周遊行動の実態を、広域的な視点から明らかにする。
- ②位置情報データに加え、地域施策の調査や自治体へのヒアリングを行うことで、数値の変化だけでなく、その背景や要因についても考察する。
- ③本調査を通じて、大型イベントが地域にもたらす人流の広がりや、その持続性・偏在性を整理し、今後の地域観光施策や大型イベントのレガシー形成に向けた示唆を導き出す。

## 調査名

大阪・関西万博を契機とした地域への人流波及効果に関する分析

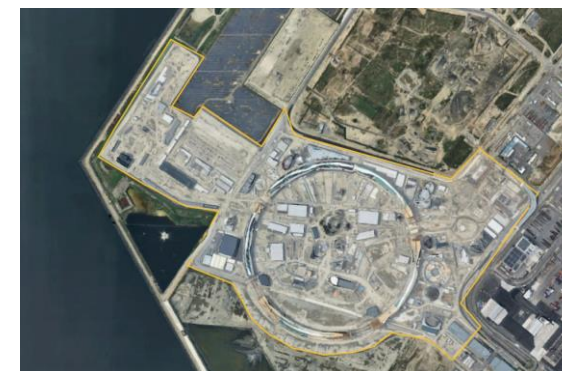
## データの種類

株式会社ログウォッチャーの提携するアプリをダウンロードし、位置情報取得に同意したユーザーの端末から取得された位置情報データ

## 取得対象者

2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）の期間に、大阪・関西万博会場内で1回以上の位置情報ログが取得されたユーザー

※位置情報より、20mほど広めに取得



## 分析対象期間

2025年4月13日（日）～12月31日（水）  
（万博開催期間および閉幕後を含む約8.5カ月間）  
2024年4月13日（土）～12月31日（火）  
（前年同時期・約8.5カ月間）

### ※分析上の留意点

- ・本調査は、利用者の同意に基づき取得された位置情報データを、個人を特定できない形で統計処理した上で分析を行いました。なお、位置情報は取得状況や利用環境によって記録頻度に差が生じるため、実際の移動や訪問の全てを完全に網羅するものではありません。
- ・個人情報（氏名、住所、電話、メール等）は収集・利用はありません。
- ・居住地は推定であり、個人を特定するものではありません。

## 地域の定義

本調査で扱う地域の定義は下記とする。

地域名	県数	該当都道府県
近畿	2府5県	大阪府、奈良県、兵庫県、京都府、和歌山県、滋賀県、三重県
関東	1都6県	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
中部	9県	愛知県、岐阜県、山梨県、新潟県、静岡県、石川県、長野県、富山県、福井県
中国	5県	岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県
四国	4県	香川県、徳島県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	8県	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
東北	6県	青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県
北海道	1県	北海道

## 1. 大阪・関西万博来場者分析

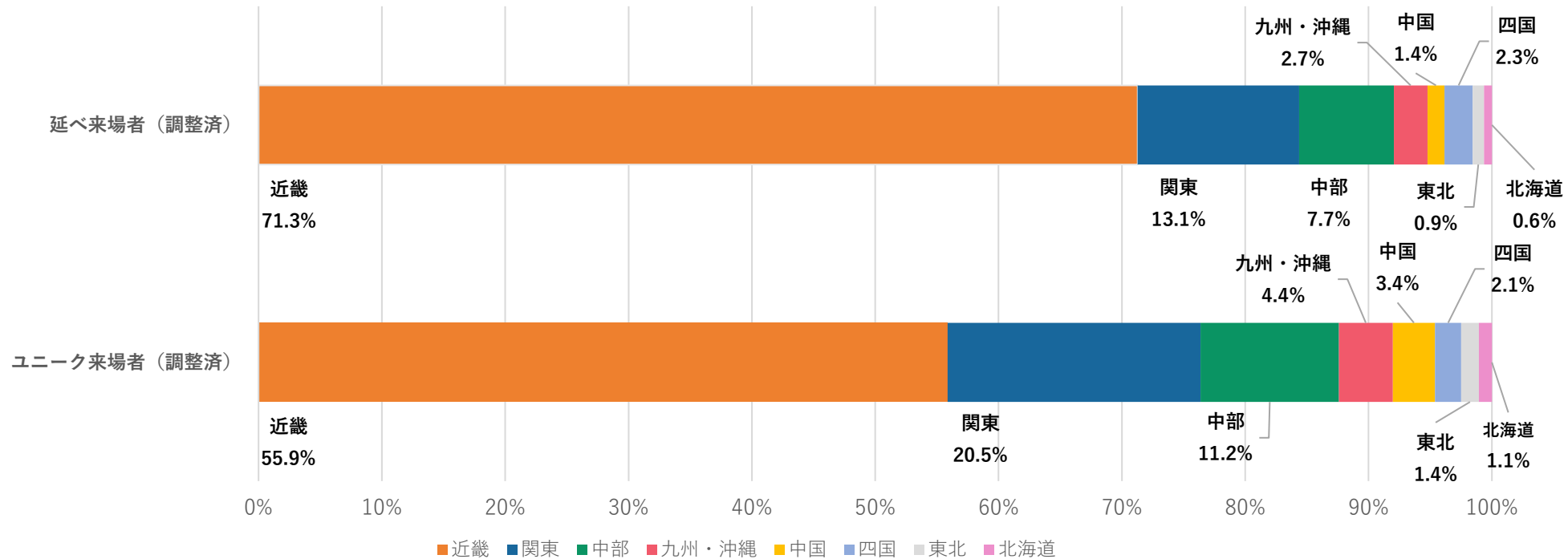
## 1. 大阪・関西万博来場者分析

### 1) 位置情報データからみた、万博来場者の特性

### 万博来場者の居住地構成—延べ来場者数・ユニーク来場者数（地域別）

万博開催期間中に取得された位置情報データを基に、来場者の居住地構成比について、延べ来場者数およびユニーク来場者数のそれぞれについて算出した。延べ来場者数では、近畿圏が71.3%を占め、近畿圏からの来訪頻度が高いことがうかがえる。次いで、関東、中部の順となった。一方、ユニーク来場者数では、近畿の構成比は55.9%となり、関東や中部をはじめとする遠方地域の割合が相対的に高まる結果となった。これは、近隣地域では同一人物による複数回来場が多い一方、遠方地域では単発来場を中心とした訪問が多いことを示している。

位置情報データに基づく居住地比率（延べ来場者・ユニーク来場者）（調整済）



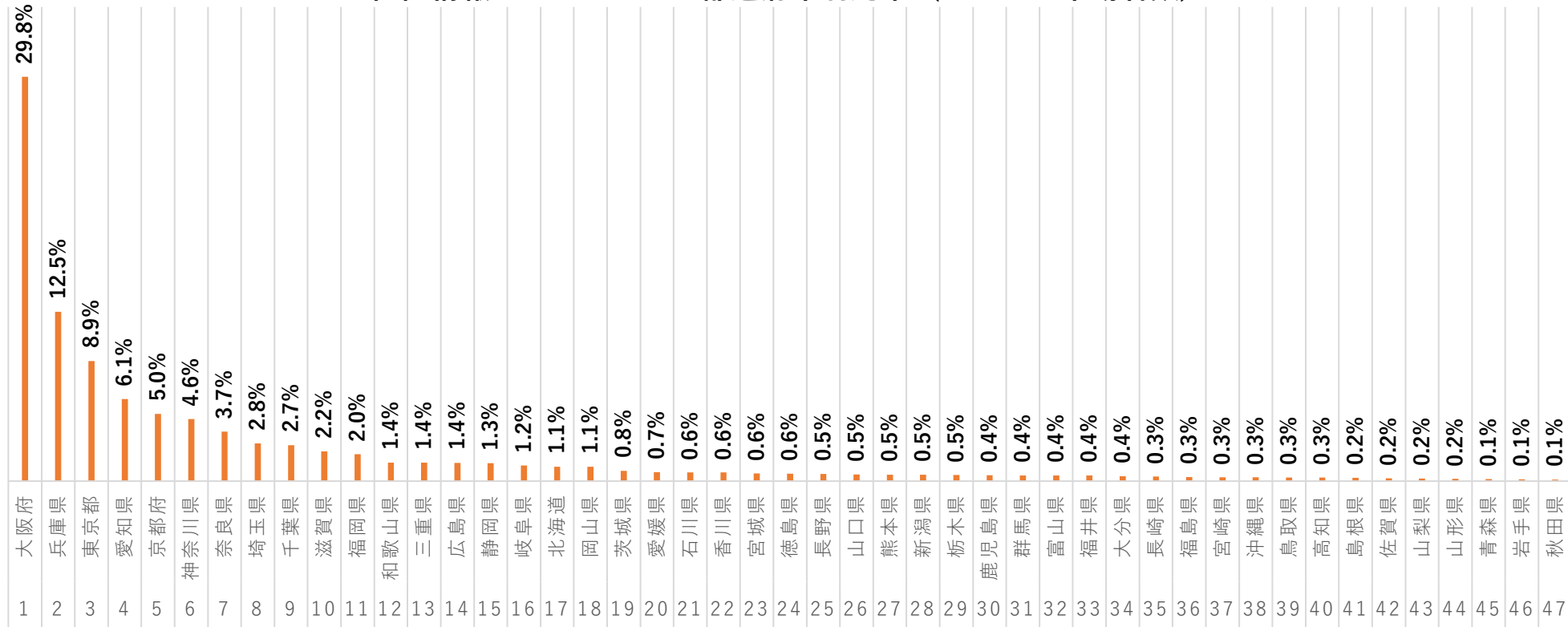
対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報取得に同意したユーザーのログデータを基に、大阪・関西万博来場者の延べ来場者数およびユニーク来場者数を算出した（いずれもインストール率を考慮した推計値）。ユニーク来場者数とは、同一の位置情報アプリIDを同一人物とみなし、分析期間中に1回以上万博会場を訪れた人数を1人として数えた来場者数を示す。

### 万博来場者の居住地構成—ユニーク来場者数（都道府県別）

前頁の地域構成比を踏まえ、来場者の居住地構成を都道府県別に算出した。ユニーク来場者数の構成比を見ると、1位は大阪府（29.8%）、2位は兵庫県（12.5%）、5位には京都府（5.0%）が入り、近畿圏の比率が高い。一方で、3位東京都（8.9%）、4位愛知県（6.1%）、6位神奈川県（4.6%）に加え、8位・9位には埼玉県、千葉県が続き、関東や中部など遠方地域からの来場も一定数確認された。

位置情報データに基づく都道府県別比率（ユニーク来場者数）



対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報取得の許諾を行ったユーザーを基に、ユニーク来場者（ID）単位で居住都道府県別の構成比を算出した。

### 居住地構成から見た万博来場者の地域の特徴

下記は、P7における地域別の延べ来場者数とユニーク来場者数の構成比の差分を計算したものである。近畿と関東では、延べ来場者数とユニーク来場者数に大きな差があり、来訪パターン・頻度に大きな差があったことがうかがえる。近畿は生活圏イベントとして複数回来場が積み重なる地元リピーター型、関東は単発来場が中心の来訪型、中部や中国、九州・沖縄などその他の地域は、単発来場とリピート来場が混在する中間的な性格を示している。

延べ来場者数とユニーク来場者数の構成比比較（地域別）

地域	延べ来場者数	ユニーク来場者数	差
近畿	71.3%	55.9%	<b>-15.4%</b>
関東	13.1%	20.5%	<b>7.4%</b>
中部	7.7%	11.2%	3.5%
九州・沖縄	2.7%	4.4%	1.7%
中国	1.4%	3.4%	2.0%
四国	2.3%	2.1%	-0.2%
東北	0.9%	1.4%	0.5%
北海道	0.6%	1.1%	0.5%

特徴の考察比較（地域別）

**①地元・近隣 リピーター・生活圏イベント型** 近畿

- 差分：-15.4%（圧倒的）
- 延べ数来場者数が高く、ユニーク来場者数で下がる
- 同一人物の「複数回来場」が多い

**②遠方 単発来訪型** 関東

- 差分：7.4%
- ユニーク来場者比率が高い
- 「来る人数」は多いが、「ひとり一回」の来場者が多い

**③準近距離 単発・リピート混在型** 中部／九州・沖縄  
中国／四国／  
東北／北海道

- 差分：-0.2～3.5%に集中
- 延べ来場者数とユニーク来場者数の乖離が小さい
- 単発来場者とリピート来場者が混在
- 近すぎず、遠すぎず、条件次第で再訪もあり得る「施策次第で動きが変わる可変型」

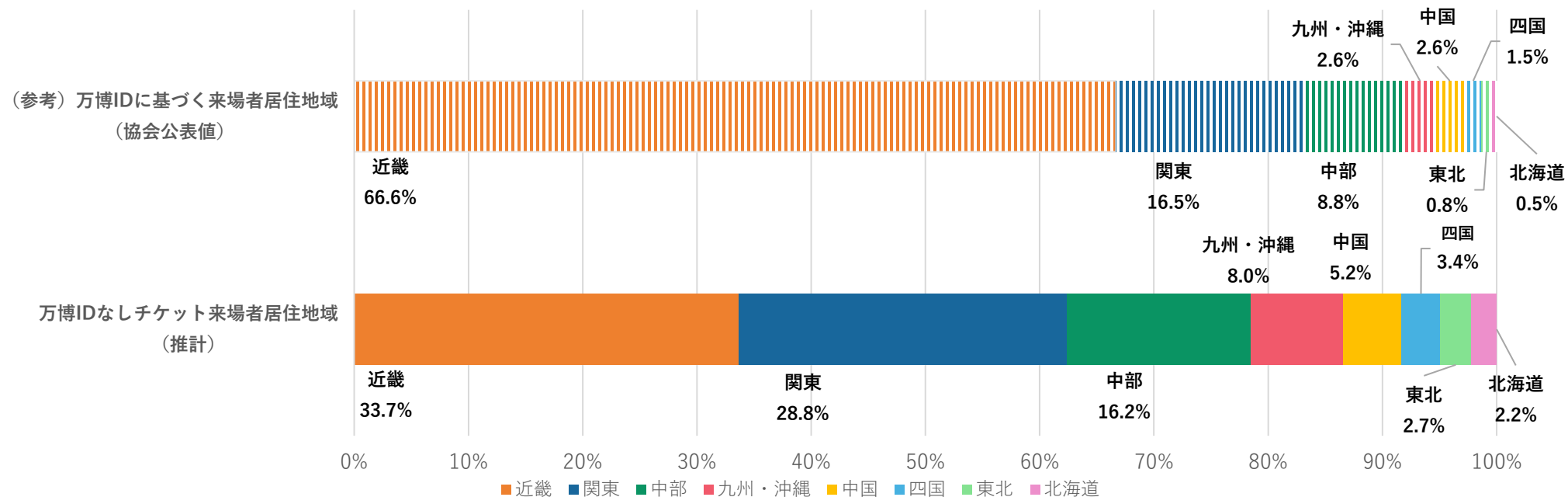
対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報取得の許諾を行ったユーザーを基に、ユニーク来場者（ID）単位で居住都道府県別の構成比を算出した。

### 万博来場者の居住地構成—万博IDあり・なしチケットの来場者（地域別）

万博チケットには、万博IDを取得して購入する方法と、IDを取得せずに来場する方法があった。博覧会協会の公表によると、IDなしチケットはチケット入場者全体の27.7%を占める。本分析では、位置情報データによるユニーク来場者の居住地構成と、博覧会協会が公表するチケット情報を基に、IDなしチケット来場者の居住地構成を推計した。その結果、IDなしチケット来場者では近畿の割合が33.7%となり、関東・中部をはじめ、遠方地域の割合が相対的に高まった。九州・沖縄（8.0%）、中国（5.2%）、四国（3.4%）、東北（2.7%）、北海道（2.2%）は、約2～3倍に構成比が上昇した。

万博IDあり・なしチケット来場者の居住地域比率（推計）



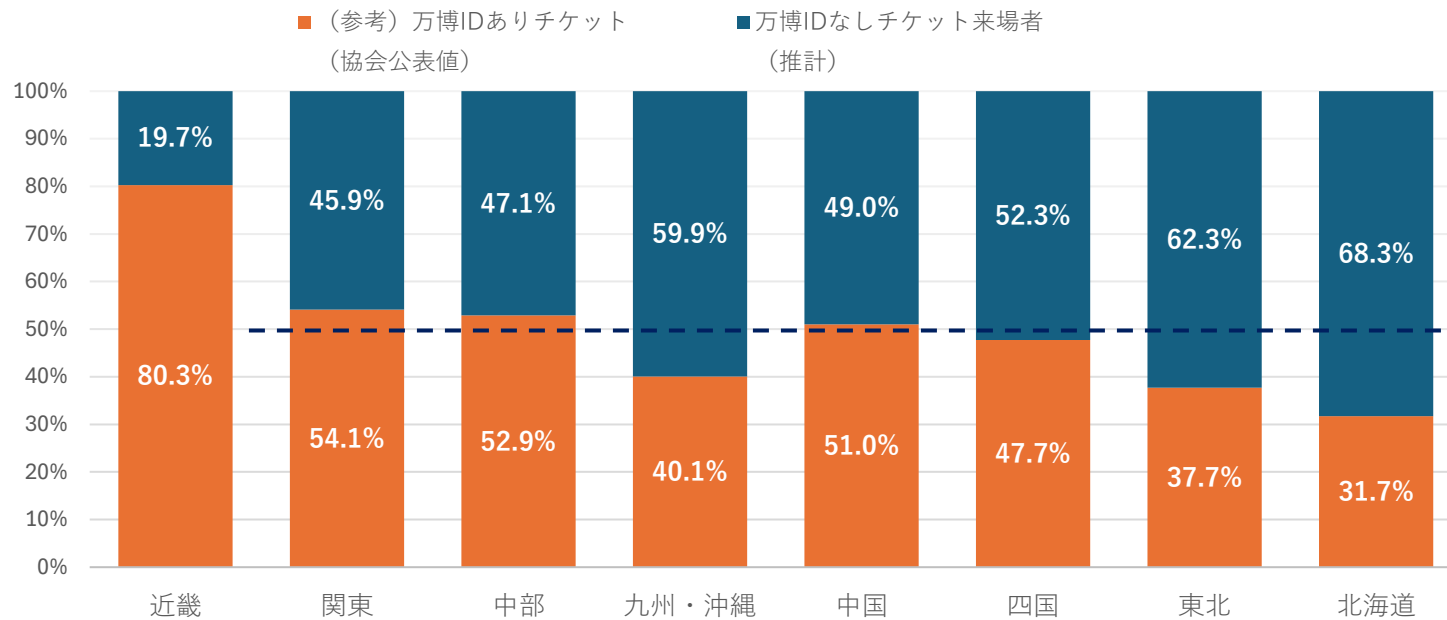
対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：本分析では、位置情報データによる来場者を博覧会協会が公表するチケット構成（IDあり・IDなし）に対応するものとして扱い、その構成比を用いてIDなしチケット来場者の居住地構成を推計した。ただし、位置情報データにはADパス等による来場者が含まれる可能性があるため、両者は厳密には一致しない。

## 各地域における万博IDあり・なしチケットの来場者の割合

各地域ごとに、万博IDあり来場者とIDなし来場者の比率を見ると、近畿では80.3%がIDを取得して来場している。一方、その他の地域ではIDあり・なしの比率はほぼ半分となり、九州・沖縄、東北、北海道など開催地から遠方の地域では、IDなしの割合が半数以上となった。この背景には、近畿圏では複数回の来場が比較的多く、ID登録を行ったうえでチケットを利用する来場者が多い一方、遠方地域では単発来場が中心となり、ID登録を伴わないチケット利用が相対的に多かった可能性が考えられる。IDなしチケットの仕組みは、地域からの来場を受け入れる役割を果たしていた可能性が考えられる。

### 万博IDあり・なしチケット保有の割合（地域別）



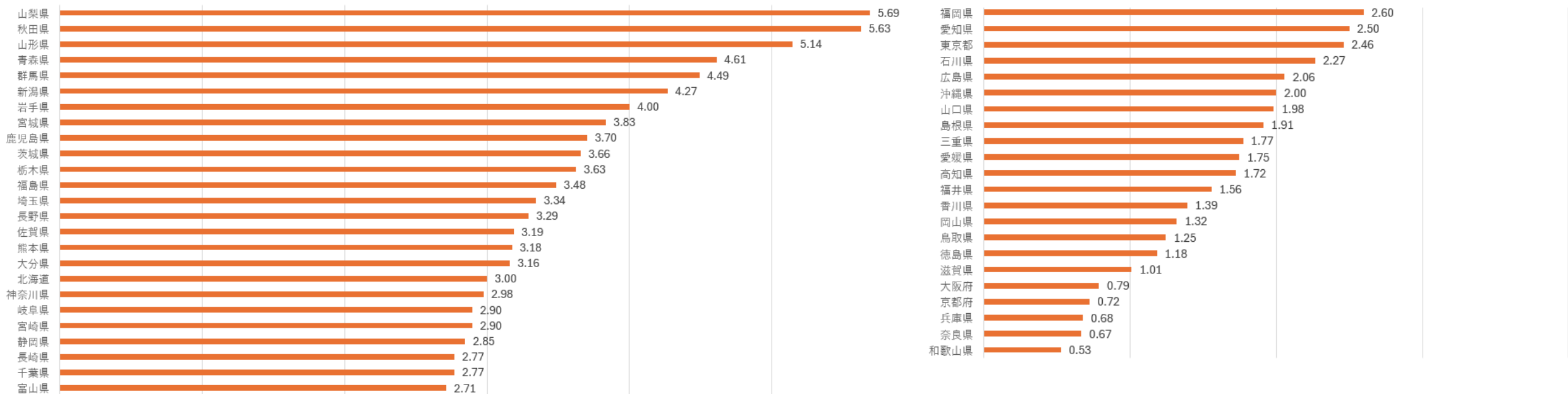
対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報データによる来場者を、博覧会協会が公表するチケット構成（IDあり・IDなし）に対応させ、その構成比を基にIDなしチケット来場者の居住地構成を推計した。これを基に、各地域の来場者を100%とした場合のIDあり・IDなし来場者の割合を算出している。

### 大阪・関西万博期間中における大阪府への新規宿泊者割合

下記グラフは、万博来場者のうち2025年に大阪府で宿泊した来訪者を対象に、新規宿泊者数を継続宿泊者数で割った比率を居住地別に示したものである。東北や北関東、九州など、従来は大阪での宿泊が相対的に少なかった地域では、新規宿泊者の比率が高い傾向が見られた。一方、福岡県、愛知県、東京都および近畿圏など、従来から大阪への宿泊旅行（観光・ビジネス）が一定程度見られる地域では、その比率は相対的に低い傾向が確認された。

万博開催中における大阪府宿泊の新規宿泊者比率（%）（都道府県別）



対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報取得の許諾を行ったユーザーを基に、大阪・関西万博来場者のうち大阪府で宿泊した来訪者を対象としている。

新規宿泊者－2024年には大阪で宿泊していなかったが、2025年（万博開催年）に新たに大阪で宿泊した来訪者。

継続宿泊者－2024年および2025年の両年で大阪に宿泊した来訪者。

## 万博来場者の居住地別リピート率

ユニーク来場者について、来場回数別（3回以上、5回以上、10回以上、20回以上、30回以上）に、居住都道府県ごとの来場者に占める割合を算出し、上位の都道府県を整理した。リピート来場は大阪府を中心とした近隣圏で高い割合を示しており、地理的近接性が高頻度来場を支える構造がうかがえる。一方、中・四国や中部などの準近隣圏からも継続的な来場が確認された。また、10回以上来場層に比べて全体的に20回以上来場層ではその割合が大きく低下しており、極めて高頻度の来場は一部のコア層に集中している可能性が示唆された。

## 万博来場者の居住地別リピート率（回数別上位都道府県）

	リピート3回以上		リピート5回以上		リピート10回以上		リピート20回以上		リピート30回以上	
	都道府県	比率(%)	都道府県	比率(%)	都道府県	比率(%)	都道府県	比率(%)	都道府県	比率(%)
1位	大阪府	25.6	大阪府	14.6	大阪府	7.6	大阪府	2.9	大阪府	1.4
2位	奈良県	18.9	奈良県	9.6	奈良県	4.2	兵庫県	1.4	兵庫県	0.6
3位	兵庫県	18.2	兵庫県	8.9	兵庫県	4.1	奈良県	1.1	奈良県	0.5
4位	京都府	15.4	京都府	7.5	京都府	2.9	京都府	0.9	京都府	0.4
5位	和歌山県	12.9	和歌山県	5.8	和歌山県	2.3	和歌山県	0.6	滋賀県	0.3
6位	滋賀県	12.1	滋賀県	5.1	滋賀県	2.1	滋賀県	0.5	和歌山県	0.2
7位	三重県	8.8	三重県	3.3	愛知県	0.9	徳島県	0.3	岐阜県	0.1
8位	岡山県	8.7	香川県	3.0	三重県	0.9	岐阜県	0.3	徳島県	0.1
9位	香川県	8.7	岐阜県	2.9	岐阜県	0.8	三重県	0.2	三重県	0.1
10位	愛知県	8.5	愛知県	2.9	青森県	0.8	愛知県	0.2	福井県	0.1

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報取得の許諾を行ったユーザーをもとに、ユニーク来場者（ID）単位で居住都道府県別の構成比を算出した。

順位は小数点第2位以下の値に基づき決定しており、表示上同値となる場合でも順位順に掲載している。

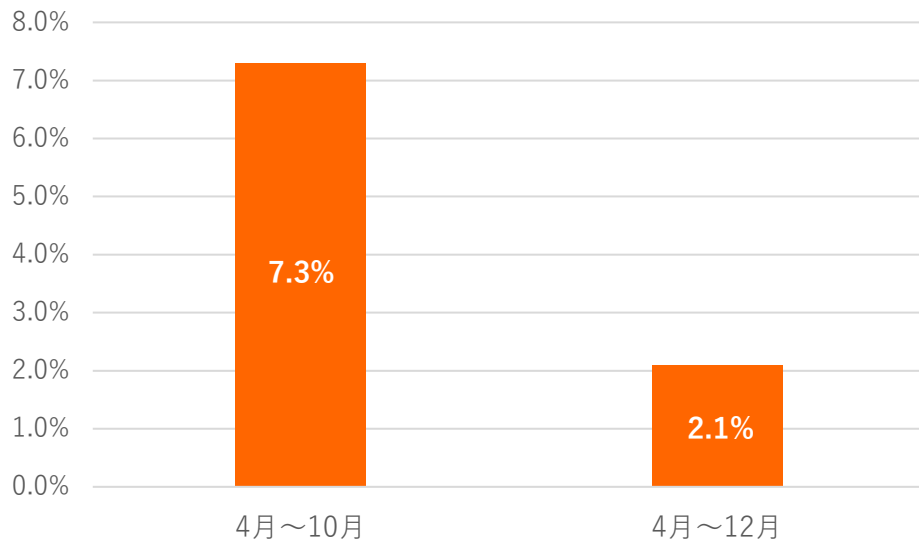
## 1. 大阪・関西万博来場者分析

### 2) 位置情報データからみた、万博来場者の周遊行動

## 一般観光（観光庁宿泊旅行統計調査）との万博来場者の宿泊行動比較

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2025年4月から10月までの全国の日本人宿泊旅行者数は前年比▲3.4%と減少しており、4月から12月までで見ても▲3.6%と前年を下回る水準となっている。国内の宿泊旅行需要は、前年と比べてやや伸び悩む状況となっている。一方、本分析では、万博開催に伴い、従来訪問されていた地域から宿泊先が変化した可能性（宿泊先のシフト）や、開催地周辺への周遊旅行、万博や関連イベントを契機とした新たな宿泊旅行が生じた可能性を把握するため、万博来場者の地域移動について位置情報データを用いた分析を行った。分析対象は、約10万人のIDデータであり、2024年および2025年の両年に居住地以外の都道府県で宿泊ログが確認された来訪者である。本分析では、宿泊者数や宿泊泊数の増減ではなく、万博来場者が宿泊先として選択した都道府県の広がり（訪問先の分散度）に着目している。この指標でみると、前年比は4月～10月で+7.3%、閉幕後を含む4月～12月で+2.1%となった。これは、万博を契機として、開催地周辺での周遊や、万博関連イベントをきっかけとした新たな宿泊旅行が生じた可能性が示唆される。

### 万博来場者における宿泊地域の広がり



参考) 観光庁 宿泊旅行統計調査

都道府県別 日本人延べ宿泊者数 (人)

	2024年	2025年	全国宿泊旅行者数前年比
4月～10月	297,656,560	287,430,310	-3.4%
4月～12月	380,770,770	367,014,050	-3.6%

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）、2024年4月13日（土）～10月13日（日）（万博開催期間）2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）（開催期間+閉幕後）

作成データ：2024年および2025年の4月13日～12月31日の期間に、居住地以外の都道府県で宿泊ログが確認された約10万人の来訪者を対象に、宿泊先の地域配分の変化を前年と比較。

指標の定義：変化率は、（新規宿泊+継続宿泊）／（離反+継続宿泊）の比率として算出した。

なお、本分析は宿泊先の変化をIDベースで算出したものであり、観光庁の宿泊旅行統計（延べ宿泊者数）とは定義が異なる点に留意が必要である。

## 万博来場者における宿泊先の増減ランキングー都道府県別・開催期間中

万博来場者約10万人のIDデータを対象に、2024年と比較して、万博開催年に新たに宿泊が生じた都道府県（新規宿泊）と、宿泊が見られなくなった都道府県（離反）について、そのID数の増減の上位10位を示した。宿泊先純増数を見ると、大阪府を筆頭に近畿圏の複数の府県が上位に位置しており、万博来場を契機とした滞在や周遊により、開催地およびその周辺地域が宿泊先として選ばれる傾向がみられた可能性がある。一方、下位には東京都や千葉県などが位置し、従来選択されてきた観光地への旅行の一部が万博来訪へとシフトした可能性も考えられる。なお、観光庁の宿泊旅行統計は宿泊人数（延べ人数）を集計したものであり、本分析で用いている万博来場者の宿泊先の変化（IDベース）とは定義が異なる点に留意が必要である。

## 万博来場者における宿泊先の増減（都道府県別・開催期間中）

			増加		減少	
	新規で宿泊をした	宿泊をしなくなった	宿泊先純増数	参考) 観光庁宿泊統計変化 増加（4月-10月）	宿泊先純減数	参考) 観光庁宿泊統計変化 減少（4月-10月）
1位	大阪府	東京都	大阪府	大阪府	東京都	東京都
2位	東京都	静岡県	兵庫県	神奈川県	北海道	北海道
3位	兵庫県	愛知県	滋賀県	三重県	千葉県	京都府
4位	静岡県	兵庫県	静岡県	愛知県	石川県	長野県
5位	愛知県	大阪府	奈良県	青森県	福岡県	石川県
6位	神奈川県	神奈川県	愛知県	奈良県	福井県	静岡県
7位	京都府	北海道	京都府	宮崎県	神奈川県	沖縄県
8位	滋賀県	京都府	香川県	宮城県	沖縄県	新潟県
9位	北海道	長野県	和歌山県	徳島県	埼玉県	群馬県
10位	長野県	千葉県	岡山県	富山県	長野県	栃木県

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）、2024年4月13日（土）～10月13日（日）（万博開催期間）  
作成データ：P15と同じ（万博来場者約10万人のIDデータ）。宿泊先の変化は上記対象期間で算出した。

## 万博来場者における宿泊先の増減ランキングー都道府県別・開催期間中＋閉幕後

下記は、宿泊先の増減を、万博開催期間に加えて閉幕後（2025年12月31日（水））まで対象期間を延長して算出したものである。宿泊先の純増を見ると、閉幕後も大阪府を筆頭に近畿圏の複数の府県が上位に位置しているが、開催期間中にランクインした京都府は10位外となった。一方、下位には東京都に加え、引き続き千葉県もランクインしており、万博開催期間中に生じた宿泊先の変化が閉幕後も一定程度継続していた可能性が考えられる。

## 万博来場者における宿泊先の増減（都道府県別・開催期間中＋閉幕後（12月31日まで））

			増加		減少	
	新規で宿泊をした	宿泊をしなくなった	宿泊先純増数	参考) 観光庁宿泊統計変化 増加（4月-12月）	宿泊先純減数	参考) 観光庁宿泊統計変化 減少（4月-12月）
1位	大阪府	東京都	大阪府	大阪府	東京都	東京都
2位	東京都	愛知県	兵庫県	神奈川県	北海道	北海道
3位	静岡県	静岡県	奈良県	三重県	千葉県	京都府
4位	愛知県	兵庫県	滋賀県	愛知県	神奈川県	長野県
5位	兵庫県	神奈川県	香川県	青森県	福岡県	沖縄県
6位	神奈川県	京都府	静岡県	奈良県	石川県	石川県
7位	京都府	大阪府	和歌山県	宮崎県	福井県	群馬県
8位	滋賀県	北海道	愛知県	宮城県	沖縄県	静岡県
9位	福岡県	千葉県	高知県	徳島県	埼玉県	栃木県
10位	長野県	福岡県	岡山県	福島県	長野県	兵庫県

対象期間：2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）（万博開催期間＋閉幕後）  
作成データ：P15と同じ（万博来場者約10万人のIDデータ）。宿泊先の変化は上記対象期間で算出した。

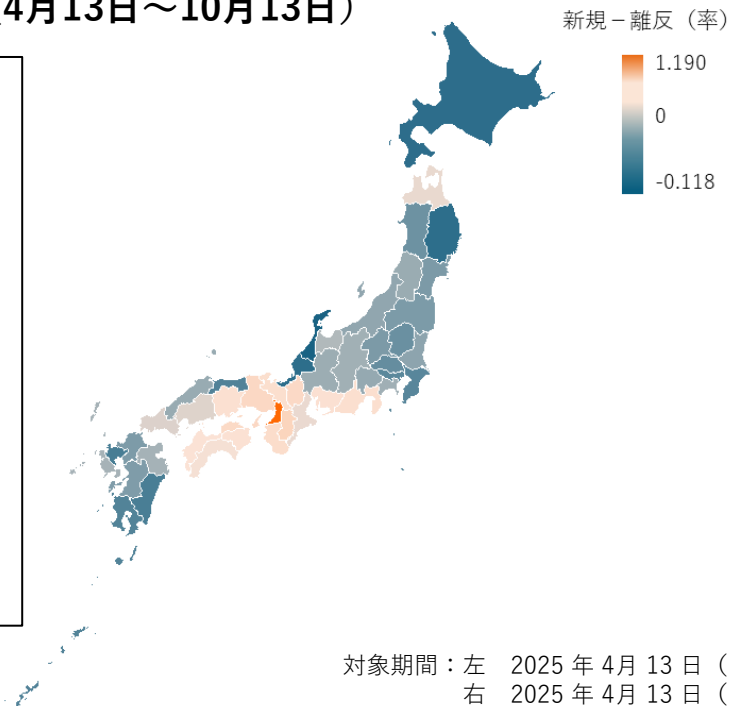
### 万博来場者の宿泊行動の変化（新規獲得率－離反率）

万博開催期間中および閉幕後12月31日までを対象に、「新規獲得率（新たに宿泊した割合）」と「離反率（前年から宿泊が継続しなかった割合）」を比較し、新規獲得率が離反率を上回った都道府県を抽出した。その結果、大阪府を筆頭に、近畿圏を中心として中・四国圏まで広域でプラスとなる構造が確認された。特に大阪府は獲得率－離反率の差が大きく、万博開催地として宿泊需要を強く獲得したことがうかがえる。さらに、分析期間を閉幕後（12月31日）まで延長した場合でも、近畿圏を中心に四国の一部までプラスが維持されており、新規宿泊獲得の傾向が閉幕後まで継続している可能性が示唆された。

#### 万博来場者における宿泊行動の変化

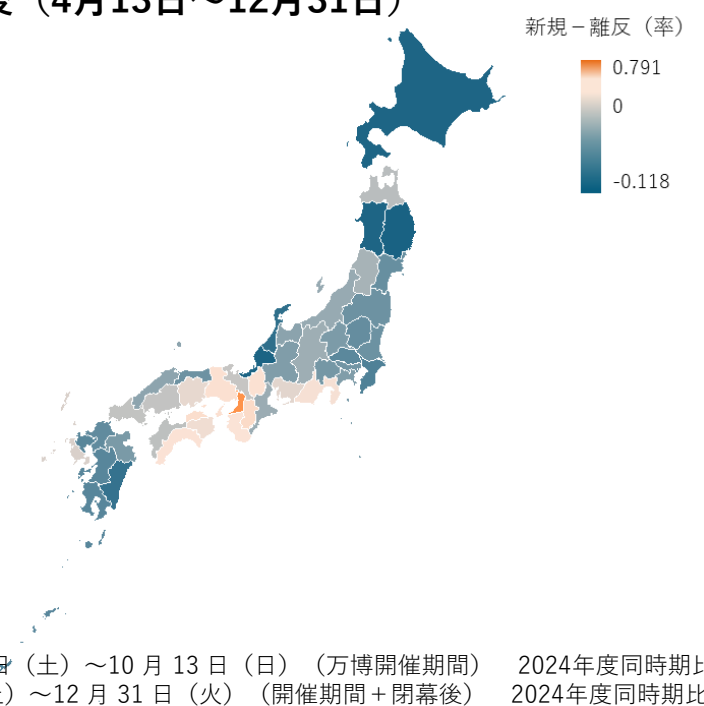
万博開催期間（4月13日～10月13日）

- プラスとなった都道府県
- 大阪府
  - 奈良県
  - 兵庫県
  - 滋賀県
  - 香川県
  - 和歌山県
  - 京都府
  - 静岡県
  - 岡山県
  - 徳島県
  - 愛知県
  - 高知県
  - 三重県
  - 青森県
  - 広島県
  - 山口県



万博開催期間＋閉幕後（4月13日～12月31日）

- プラスとなった都道府県
- 大阪府
  - 奈良県
  - 香川県
  - 兵庫県
  - 滋賀県
  - 高知県
  - 和歌山県
  - 静岡県
  - 徳島県
  - 岡山県
  - 愛知県



対象期間：左 2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）、2024年4月13日（土）～10月13日（日）（万博開催期間） 2024年度同時期比較  
 右 2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）（開催期間＋閉幕後） 2024年度同時期比較  
 作成データ：P15と同じ（万博来場者約10万人のIDデータ）。宿泊先の変化は各対象期間で算出した。

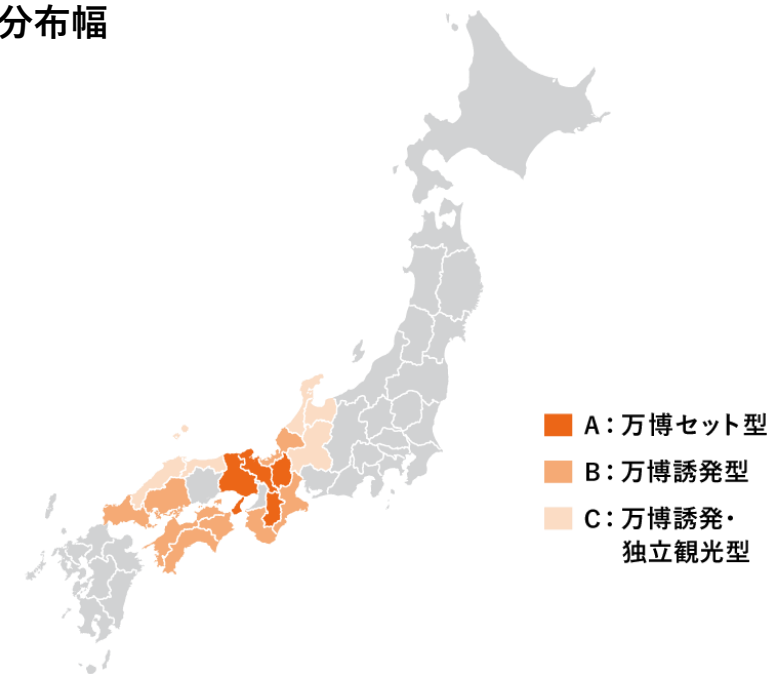
## 万博来場前後における宿泊タイミングの分布—都道府県別

万博来場日を基準として、各地域における宿泊日の分布を分析し、万博来場との関係から宿泊行動のパターンを整理した。その結果、宿泊が万博来場と同時期に集中する「A：万博セット型」、万博来場を契機として宿泊が増加する「B：万博誘発型」、万博誘発と独立した観光の双方がみられる「C：万博誘発・独立観光型」の3属性に分類された。

「A：万博セット型」には近畿圏が多く、「B：万博誘発型」では中・四国まで周遊が広がる傾向が見られた。また、鳥取県や石川県などは「C：万博誘発・独立観光型」に分類され、万博を契機とした旅行と独立した観光の双方が含まれる傾向が確認された。

宿泊タイミングの分布幅

A：万博セット型	B：万博誘発型	C：万博誘発・独立観光型
兵庫県	三重県	鳥取県
奈良県	和歌山県	富山県
京都府	福井県	石川県
滋賀県	香川県	島根県
	徳島県	岐阜県
	愛媛県	
	高知県	
	広島県	
	山口県	



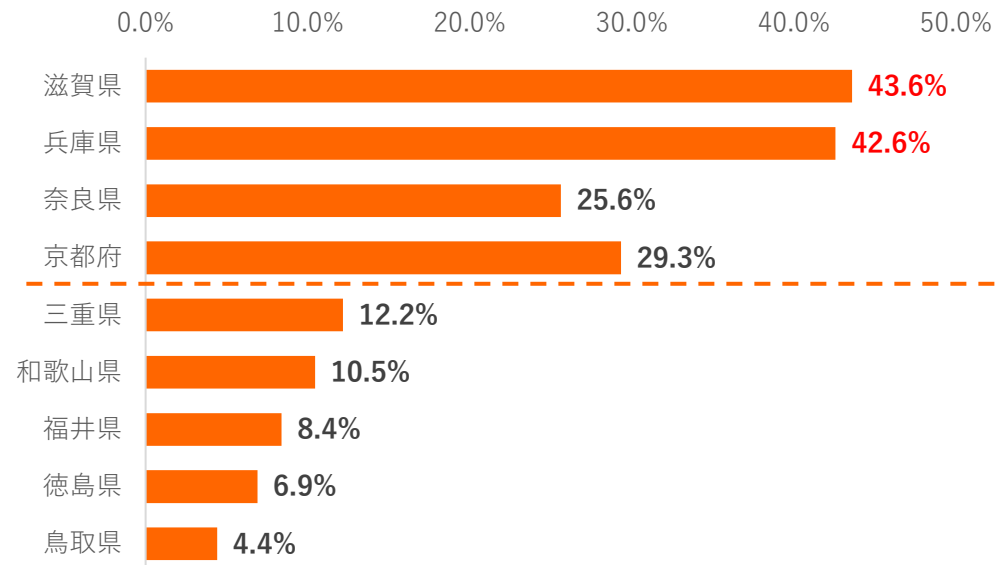
対象期間：2025年4月13日（日）～12月31日（水）

作成データ：P15と同じ（万博来場者約10万人のIDデータ）。万博来場初日と当該都道府県での新規宿泊ログとのラグ分布（中央値および四分位範囲）に基づき宿泊行動タイプを分類した。

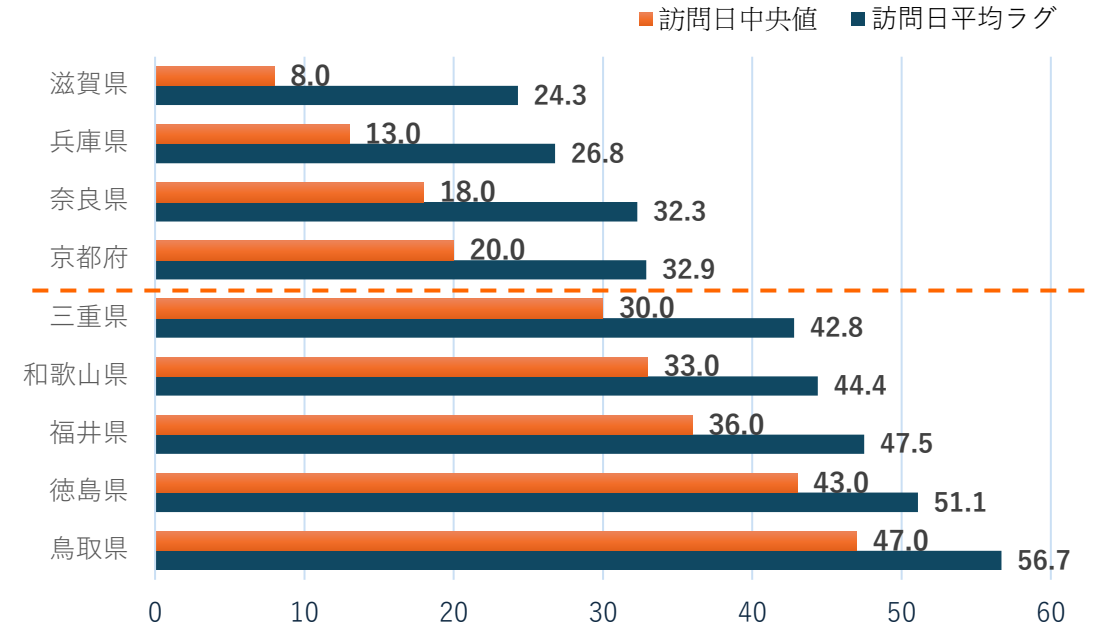
## 関西パビリオン来場者の各都道府県訪問率と訪問タイミング

万博開催期間中に取得した位置情報データを基に、関西パビリオン来場者の各都道府県への訪問率および訪問時期の特徴を分析した。左のグラフを見ると、訪問率では滋賀県が最も高く、次いで兵庫県が続いた。一方、三重県以降では訪問率が低下した。また、右の各都道府県への訪問日のタイミング（ラグ日数）を見ると、中央値では京都府までの近隣4府県で20日以内が多いのに対し、三重県以降では30日（約1カ月）以上となった。より距離のある地域では万博来場から一定期間をおいて訪問される傾向があるなど、万博旅行とのセット性やアクセスのしやすさが影響している可能性が考えられる。

### 関西パビリオン来場者の各都道府県訪問率



### 各都道府県への訪問までの日数（ラグ日数の平均と中央値）



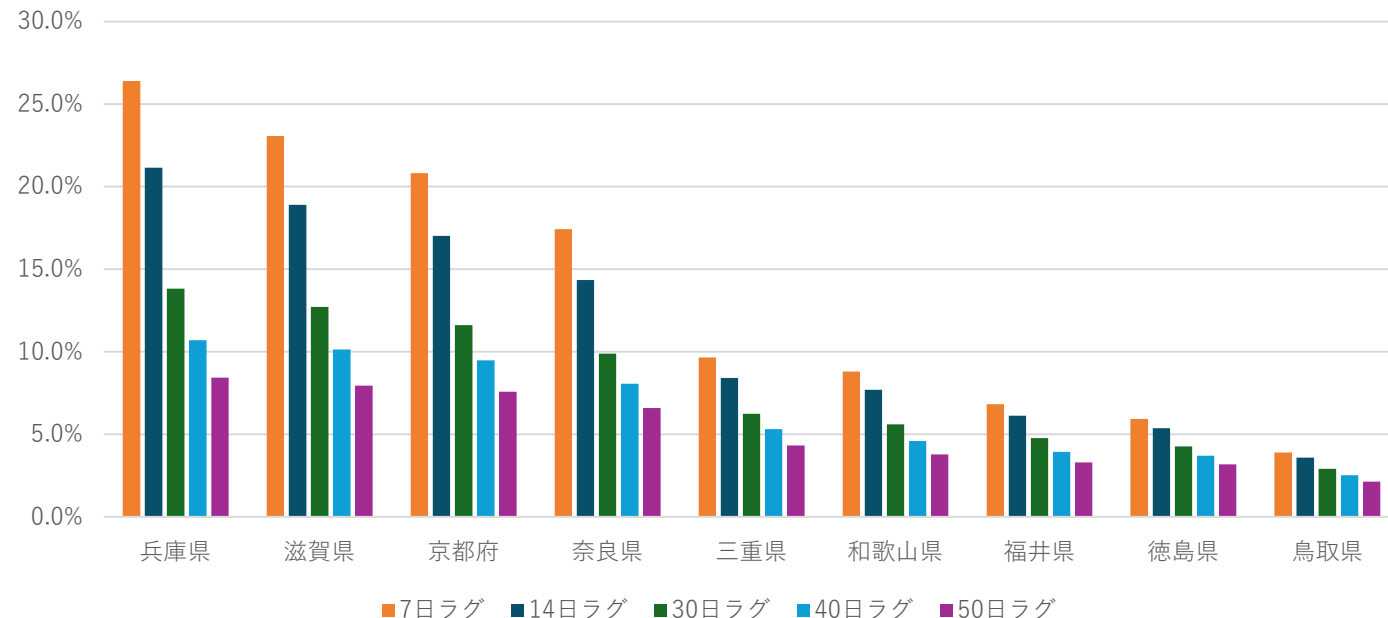
対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：万博開催期間中に関西パビリオンにログが確認された来場者を対象とし、各都道府県訪問率は当該都道府県居住者を除いたサンプルで算出した。

## 関西パビリオン来場者の当該都道府県訪問率と訪問日の特徴

前頁の関西パビリオン来場者の各都道府県訪問率をもとに、万博来場日からのラグ日数別に訪問率を比較した。7日以内の訪問率は兵庫県・滋賀県・京都府・奈良県など近畿圏で高い。  
一方、徳島県や鳥取県など開催地から距離のある地域では、来場直後の訪問率は低いものの、その後も一定割合の訪問が確認された。ラグが長くなるにつれて地域間の差は縮小しており、これらの地域では万博来場後に別機会の旅行として訪問されている可能性が示唆される。

関西パビリオン来場者の各都道府県訪問率（一定期間後、県外在住者）



	7日ラグ	14日ラグ	30日ラグ	40日ラグ	50日ラグ
兵庫県	26.4%	21.2%	13.8%	10.7%	8.4%
滋賀県	23.1%	18.9%	12.7%	10.1%	7.9%
京都府	20.8%	17.0%	11.6%	9.5%	7.6%
奈良県	17.4%	14.3%	9.9%	8.1%	6.6%
三重県	9.7%	8.4%	6.2%	5.3%	4.3%
和歌山県	8.8%	7.7%	5.6%	4.6%	3.8%
福井県	6.8%	6.1%	4.8%	3.9%	3.3%
徳島県	5.9%	5.4%	4.3%	3.7%	3.2%
鳥取県	3.9%	3.6%	2.9%	2.5%	2.1%

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：万博開催期間中に関西パビリオンにログが確認された来場者を対象とし、各都道府県訪問率は当該都道府県居住者を除いたサンプルで算出した。

## 2. 大阪・関西万博来場を契機とした地域波及分析

## ①地域の事例 万博を契機とした、徳島県への人流波及と宿泊行動に関する分析

## 交通施策と連動し訪問が拡大

## 背景・目的

大阪・関西万博の開催により、近畿圏内の観光にとどまらず、西日本を中心とした広域圏への人流の波及が確認された。四国に位置する徳島県は、大阪府から海を越えて移動を伴う地域であるが、2025年は新規宿泊が前年から宿泊が継続しなかった離反を上回り、加えて宿泊者の滞在時間も前年より伸び、県内における観光移動の範囲も広域化する傾向が確認された。

徳島県では、万博を契機とした来訪者の誘引を目的として、近畿の3府県を発着地とする高速バス・フェリーを徳島県内まで片道500円で利用できる「ワンコインキャンペーン」を実施した。本分析では、万博という大規模イベントと県独自の交通施策が重なることで、徳島県への来訪のあり方や訪問者構成、行動パターンにどのような変化が生じたのかを、位置情報データおよび徳島県へのヒアリングを基に検証する。

## 分析対象

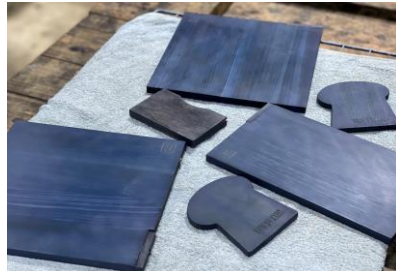
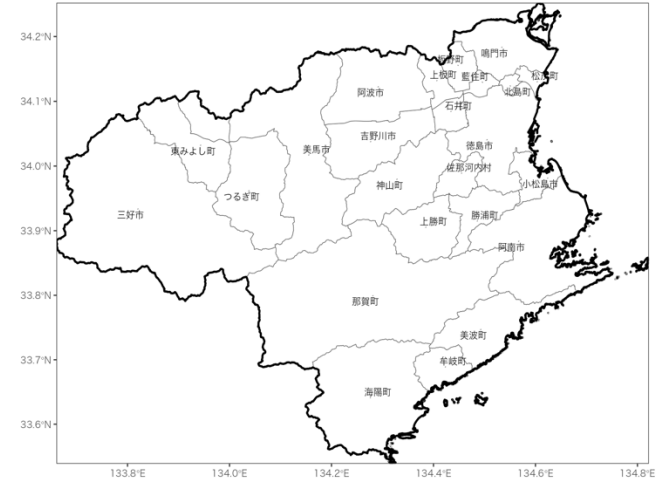
2025年に大阪・関西万博を訪れ、かつ徳島県を訪問した人を対象に、万博開催期間および閉幕後の12月31日（水）までの人流データを用いて、2024年同時期のデータと比較した（なお一部の分析は2025年データのみに基づく）。

## 分析内容

- ・大阪・関西万博開催期間における、位置情報データを用いた徳島県訪問の特徴  
居住地、居住地（エリア）別 / 訪問先 / 居住地域の特徴
- ・四国4県比較（他3県との訪問の特徴）

### 徳島県の観光について

徳島県は四国東部に位置し、大阪・近畿圏からのアクセス性も高く、山・川・海が揃う多様な自然環境を併せ持つ地域である。観光は、徳島市や鳴門市といった都市・玄関口を起点に、三好市の祖谷溪谷に代表される象徴的な自然観光地、さらに沿岸部の海景や食、生活圏に根ざした文化・体験へと広がる。旅行者の多くは徳島市・鳴門市を拠点に滞在し、旅行目的や滞在日数に応じて県内各地へ移動する特徴を持つ。

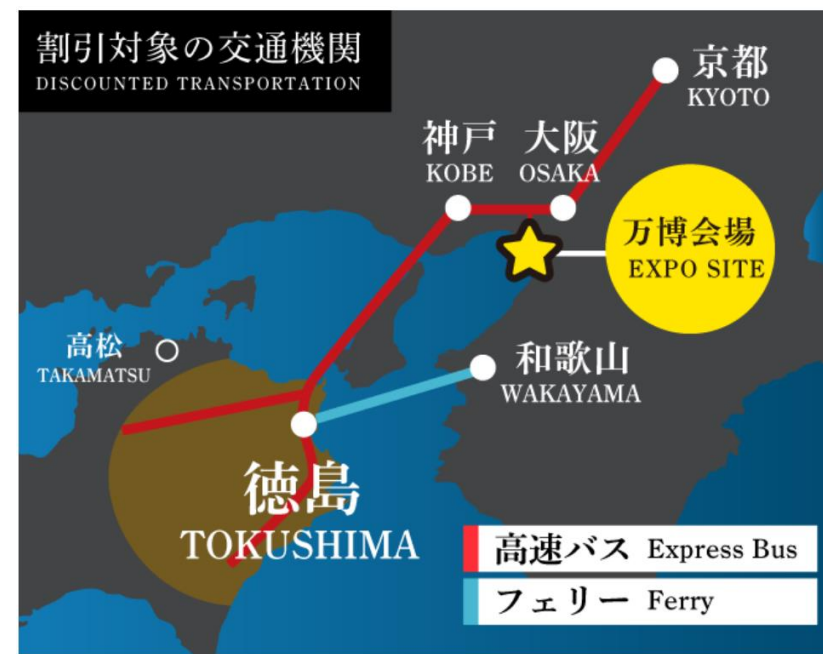


地域の一例	主要観光資源・象徴	特徴	観光タイプ
徳島市	阿波踊り、眉山、徳島城跡、市街地飲食	宿泊・交通・食の起点。万博来場者・遠方層の最初の滞在地	都市・拠点
鳴門市	鳴門のうず潮、大鳴門橋	関西方面からの入口	玄関口
阿波市	吉野川流域、田園景観、歴史資源	県内周遊型旅行で訪問されやすい	生活圏・周遊
板野郡藍住町	藍染文化、体験施設	徳島市・鳴門市周辺の立ち寄り型観光	文化・体験地
阿南市	海岸線、港町、工業都市	近隣・リピーター層の宿泊・生活圏観光	沿岸・生活圏
三好市	祖谷溪谷、かずら橋	象徴的自然観光地	自然観光地

## 大阪・関西万博開催記念「徳島県ワンコインキャンペーン」

徳島県では、2025年に開催された大阪・関西万博を契機に、徳島県への人流を創出するため、徳島県に誘客を促進するキャンペーンを実施した。万博会場内の関西パビリオン内に出展する徳島県ゾーンにおいて「近畿から徳島県までの高速バス・フェリーが500円」になるクーポン券の配布を2025年8月31日（日）まで行った。

配布枚数10万4,459枚 使用枚数1万3,279枚 使用率12.7%

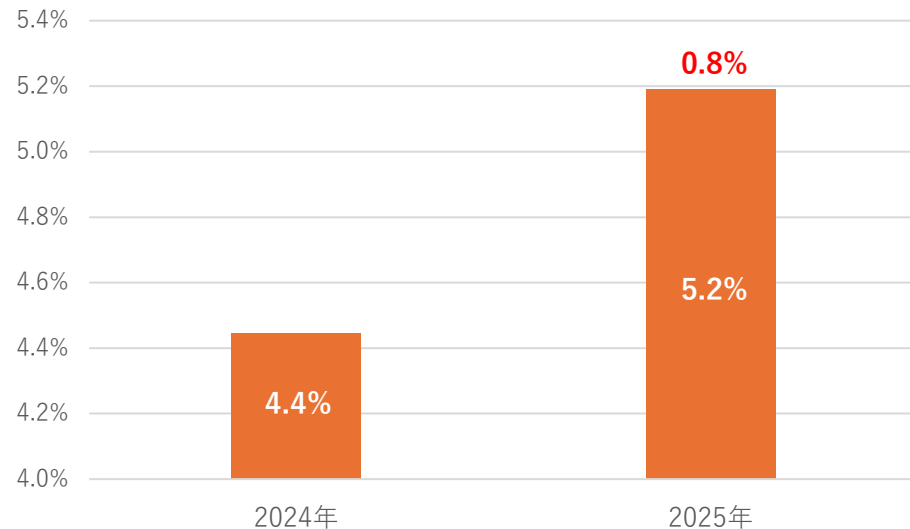


※画像 徳島県庁より拝借

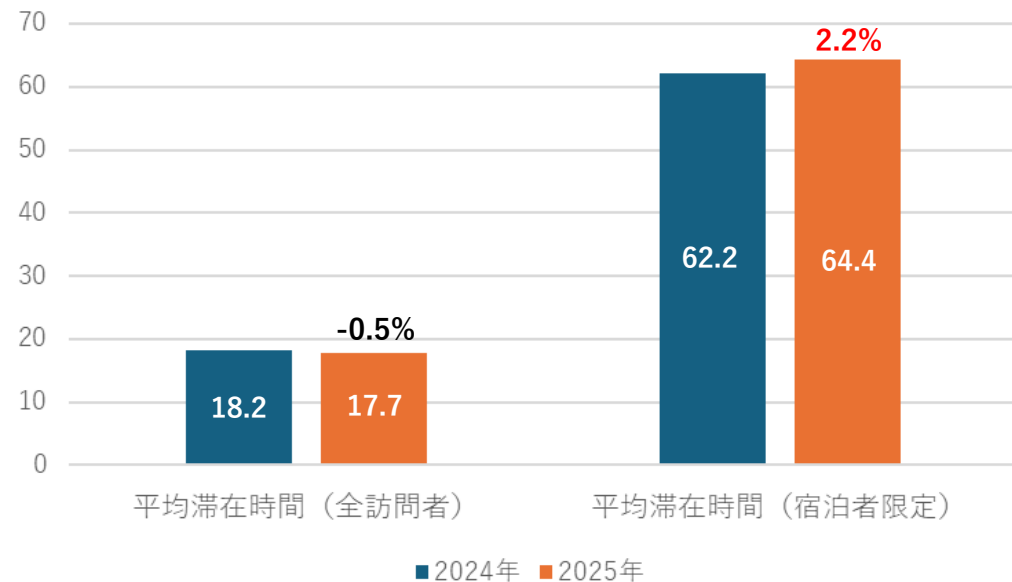
## 万博来場者における徳島県訪問者の変化—2025年・2024年比較

下記は、万博来場者における徳島県の来訪状況を2024年度と比較したものである。徳島県への訪問比率は前年より0.8%増加した。一方、右図、滞在時間について見ると、日帰り・宿泊を含む全訪問者のひとり当たり平均滞在時間は▲0.5%とやや減少したのに対し、宿泊者に限定すると+2.2%と増加した。これらの結果から、万博を契機とした新規訪問者の増加により、短時間訪問が一定程度増えた可能性がある一方で、宿泊者については滞在時間が伸び、より滞在型の行動が生じている可能性がうかがえる。

万博来場者における徳島県の訪問率比較



万博来場者における徳島県の滞在時間比較（訪問・宿泊者）



対象期間：2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）  
作成データ：万博訪問者のうち位置情報ログが確認された来訪者を母数とし、その中で徳島県に訪問ログが確認された割合を算出した。

## 大阪・関西万博・徳島県訪問者の居住地分布の変化（上位10県）—2025年・2024年比較

万博を契機とした、2025年における徳島県の来訪者居住地は大阪府が最も高い34.9%、続いて兵庫県17.6%となり、3位に東京都6.6%、4位京都府4.6%となった。四国・近畿圏を中心としつつ、3位東京都、8位愛知県、9位神奈川県など遠方からの来訪も一定数確認される。2024年度の同時期と比較すると、四国・近畿以外の地域からの来訪率が1.6%増加した。

## 上位10県の来訪者居住地割合（2025年・2024年）

2025年			2024年		
来訪県順位	県名	割合	来訪県順位	県名	割合
1位	大阪府	34.9%	1位	大阪府	37.1%
2位	兵庫県	17.6%	2位	兵庫県	19.4%
3位	東京都	6.6%	3位	東京都	5.4%
4位	京都府	4.6%	4位	京都府	5.0%
5位	香川県	4.5%	5位	香川県	4.6%
6位	奈良県	3.4%	6位	奈良県	3.8%
7位	愛媛県	3.1%	7位	愛知県	3.0%
8位	愛知県	3.0%	8位	愛媛県	2.8%
9位	神奈川県	2.9%	9位	神奈川県	2.5%
10位	高知県	1.9%	10位	滋賀県	1.8%

12.5%
10.9%

対象期間：2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）

作成データ：万博来場者のうち位置情報データで徳島県への訪問ログが確認された来訪者について、居住地別構成を算出した。

## 【参考】大阪・関西万博・徳島県訪問者の居住地分布の変化（11-20県）—2025年・2024年比較

万博を契機とした、2025年における徳島県の来訪者居住地の11位から20位の割合を見ると、2025年度は、北海道からの来訪者も、2024年と比較して増加し、20位以内にランクインした。

四国・近畿・中国エリアを除く、中距離～遠距離比率は、2025年の方が高い結果となった。

## 11位-20位の来訪者居住地割合（2025年・2024年）

2025年		
来訪県順位	県名	割合
11位	滋賀県	1.7%
12位	千葉県	1.5%
13位	埼玉県	1.5%
14位	和歌山県	1.4%
15位	岡山県	1.3%
16位	広島県	1.1%
17位	福岡県	1.0%
18位	北海道	0.8%
19位	三重県	0.7%
20位	静岡県	0.7%

2024年		
来訪県順位	県名	割合
11位	岡山県	1.6%
12位	高知県	1.6%
13位	和歌山県	1.5%
14位	千葉県	1.3%
15位	埼玉県	1.3%
16位	広島県	1.1%
17位	福岡県	0.9%
18位	三重県	0.6%
19位	静岡県	0.5%
20位	岐阜県	0.4%

対象期間：2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）

作成データ：万博来場者のうち位置情報データで徳島県への訪問ログが確認された来訪者について、居住地別構成を算出した。

順位は小数点第2位以下の値に基づき決定しており、表示上同値となる場合でも順位順に掲載している。

## 来訪者の徳島県内の主な訪問エリア—2025年・2024年比較

万博来場者に見る徳島県内の主な訪問都市の上位10位は、2025年・2024年共に同じ市町の構成となった。滞在ログ数の時間ベースで見ると、板野郡藍住町が前年比最も高い数値となった。次いで、美馬市、吉野川市となっている。万博期間中に実施した藍染体験などの取り組みが、板野郡藍住町の藍の館や美馬市のうだつの町並みへの訪問につながった可能性も考えられる。

万博来場者における徳島県内の主な訪問エリア（2025年・2024年）

訪問順位	都市名	2024年度順位	滞在ログ数前年比 (時間ベース)	2025年来訪割合	2024年来訪割合	来訪割合前年比
1位	徳島市	—	155.4%	32.8%	32.0%	0.8%
2位	鳴門市	—	142.4%	25.5%	27.2%	-1.7%
3位	阿南市	—	151.6%	6.9%	7.0%	-0.0%
4位	阿波市	—	135.7%	4.6%	5.1%	-0.5%
5位	三好市	—	144.2%	4.2%	4.4%	-0.2%
6位	板野郡松茂町	—	188.9%	4.0%	3.2%	0.8%
7位	板野郡藍住町	9位	211.0%	3.3%	2.4%	0.9%
8位	美馬市	7位	166.6%	3.0%	2.8%	0.3%
9位	吉野川市	8位	163.6%	2.8%	2.6%	0.2%
10位	小松島市	—	138.9%	2.1%	2.3%	-0.2%

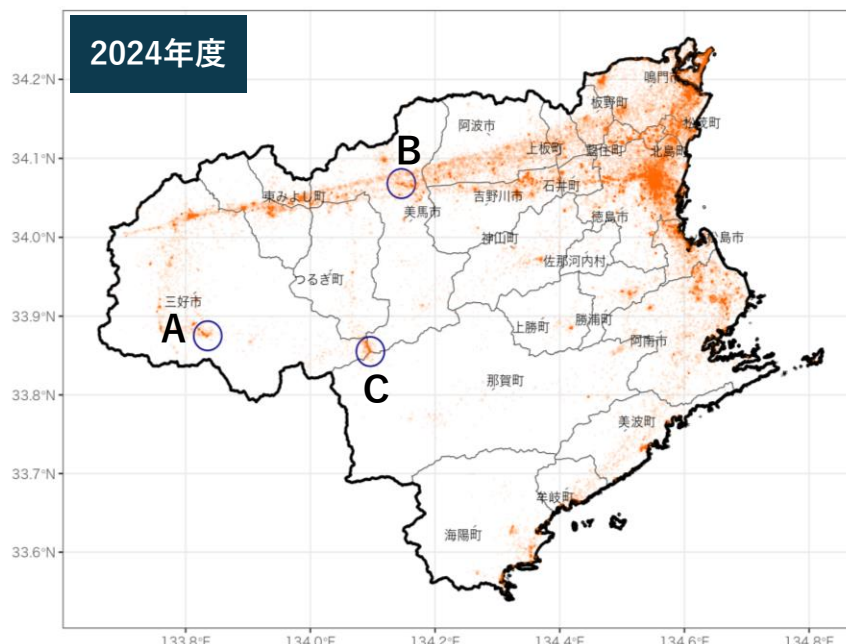
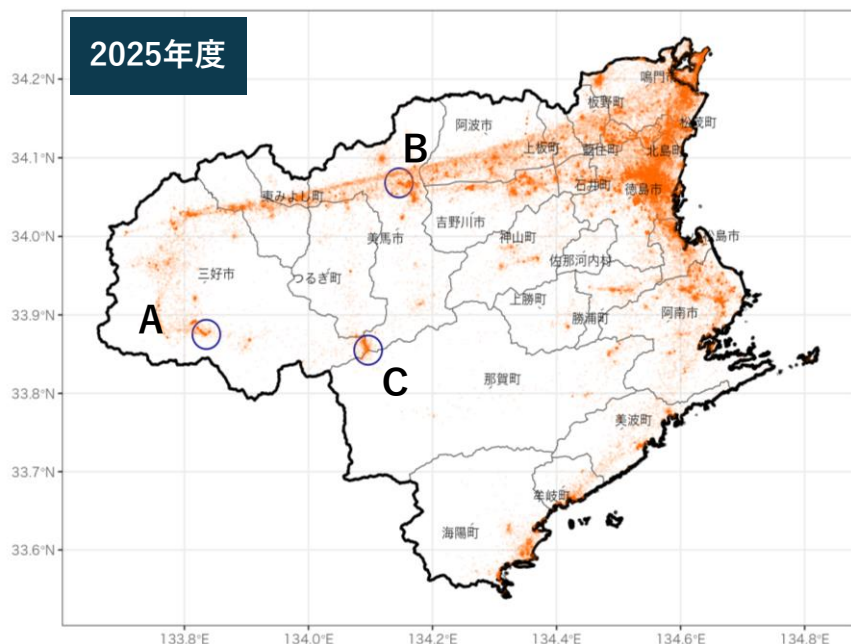
対象期間：2025年4月13日（日）～12月31日（水）、2024年4月13日（土）～12月31日（火）

作成データ：万博来場者のうち万博および徳島県を訪問した人の滞在ログ数。位置情報データの収録ID数が2024年と2025年で異なる可能性があるため、滞在ログ数前年比の解釈には留意が必要である。

### 徳島県の滞在ログ数比較 9時から21時—2025年・2024年比較

徳島県内の滞在ログ（9時から21時）の分布を点プロットベースのヒートマップで示した。色の濃淡は人流の密度を示している。万博来場者の徳島県内の訪問エリアを見ると、従来訪問が多かった徳島市・鳴門市周辺に加え、2025年の周遊行動では、遠方でありながらも万博でプロモーションを強化した、三好市（A：祖谷のかずら橋）や美馬市（B：うだつの町並み・C：剣山（山頂））など県内の内陸部の観光地にも訪問が広がる傾向が確認された。

徳島県における万博来場者層の滞在ログの分布（4月13日～10月13日）



祖谷のかずら橋



うだつの町並み



剣山からの景色

	変化率 (2024年→2025年)
A 祖谷のかずら橋	+68.8%
B うだつの町並み	+64.9%
C 剣山（山頂）	+119.1%

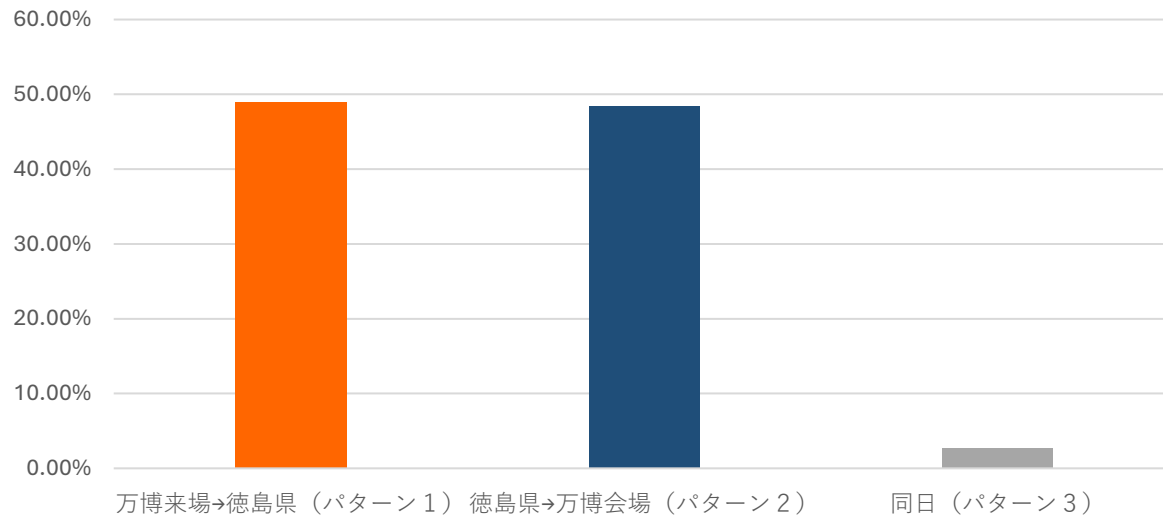
対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）、2024年4月13日（土）～10月13日（日）

作成データ：万博会場および徳島県を訪問した人の滞在ログ数。滞在ログの観測点は、1時間当たりで集計し、その時間内の平均的な位置情報を用いた。観測点の大きさはその時間におけるログ数の多さを示している。2024年から2025年の変化率は、ABCの各地点から半径1km圏内に滞在ログが記録された人を訪問者として定義し、その人数を基に算出した。

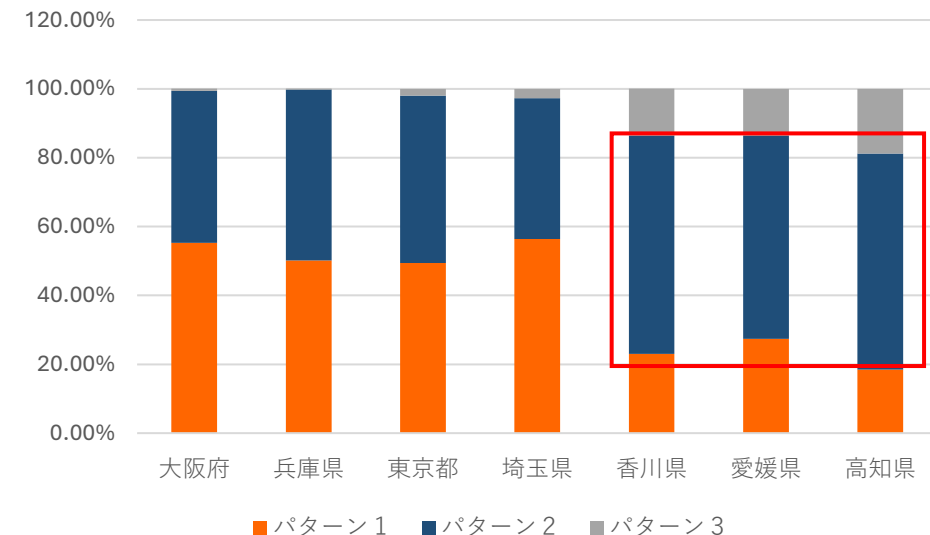
## 居住地の特徴から見た大阪・関西万博来場と徳島県訪問のタイミング

万博来場者のうち徳島県を訪問した人（徳島県在住者除く）について、万博と徳島県訪問の順序関係に着目して分析した。全体では、「万博を先に訪問し、その後に徳島県を訪れる」（パターン1）と「徳島県を先に訪問し、その後に万博を訪れる」（パターン2）とはほぼ同程度であったが、四国在住者（徳島県除く）に限るとパターン2の割合が高かった。同日訪問の割合（パターン3）も比較的高く、万博来訪に際して、徳島県からのアクセスルートを利用したことが推察される。

### 万博訪問と徳島県訪問のタイミング



### 居住地別訪問パターンの比較



対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報データを基に、万博および徳島県を訪問した人のデータを基に作成。各パターンは、万博訪問初日と徳島県来訪初日の前後関係に基づき分類した。

## パターン別の訪問市町の特徴と宿泊率

万博を先に訪問したパターン1・2では、鳴門市や徳島市の訪問割合が相対的に高い。また宿泊地を見ると、三好市や海部郡海陽町、吉野川市の宿泊率が比較的高い傾向が見られる。徳島県を先に訪問したパターン2では、阿南市や美馬市、海部郡海陽町での宿泊率がやや上がり、もともと徳島県の旅行を計画していた来訪者が、万博を訪問した可能性が考えられる。同日に訪問するパターン3では、三好市や海部郡美波町での宿泊率が他のパターンと比べて高い傾向がみられる。

パターン1（万博を先に訪問）

訪問市町村	滞在ログ	宿泊率 (%)
鳴門市		6.2
徳島市		25.0
阿波市		4.2
阿南市		9.7
板野郡松茂町		4.9
三好市		18.6
板野郡藍住町		1.9
美馬市		8.4
板野郡板野町		8.8
三好郡東みよし町		10.1
美馬郡つるぎ町		4.6
海部郡美波町		8.6
小松島市		17.0
板野郡北島町		4.8
那賀郡那賀町		12.3
海部郡海陽町		22.7
名西郡神山町		9.2
吉野川市		20.4

滞在ログは鳴門市を基準に比率を表示。

パターン2（徳島県を先に訪問）

訪問市町村	滞在ログ	宿泊率 (%)
鳴門市		7.7
徳島市		28.6
阿波市		4.4
板野郡松茂町		7.1
阿南市		12.2
板野郡藍住町		3.3
三好市		14.4
美馬市		11.1
板野郡板野町		6.6
三好郡東みよし町		11.4
板野郡北島町		4.3
美馬郡つるぎ町		4.9
海部郡美波町		9.8
小松島市		17.0
吉野川市		16.1
海部郡海陽町		24.1
那賀郡那賀町		6.3
板野郡上板町		10.0

滞在ログは鳴門市を基準に比率を表示。

パターン3（同日訪問）

訪問市町村	滞在ログ	宿泊率 (%)
鳴門市		9.1
阿波市		6.2
阿南市		4.7
徳島市		17.5
美馬市		8.1
板野郡松茂町		9.1
三好市		23.3
板野郡藍住町		0.0
海部郡美波町		25.0
美馬郡つるぎ町		5.9
三好郡東みよし町		13.3

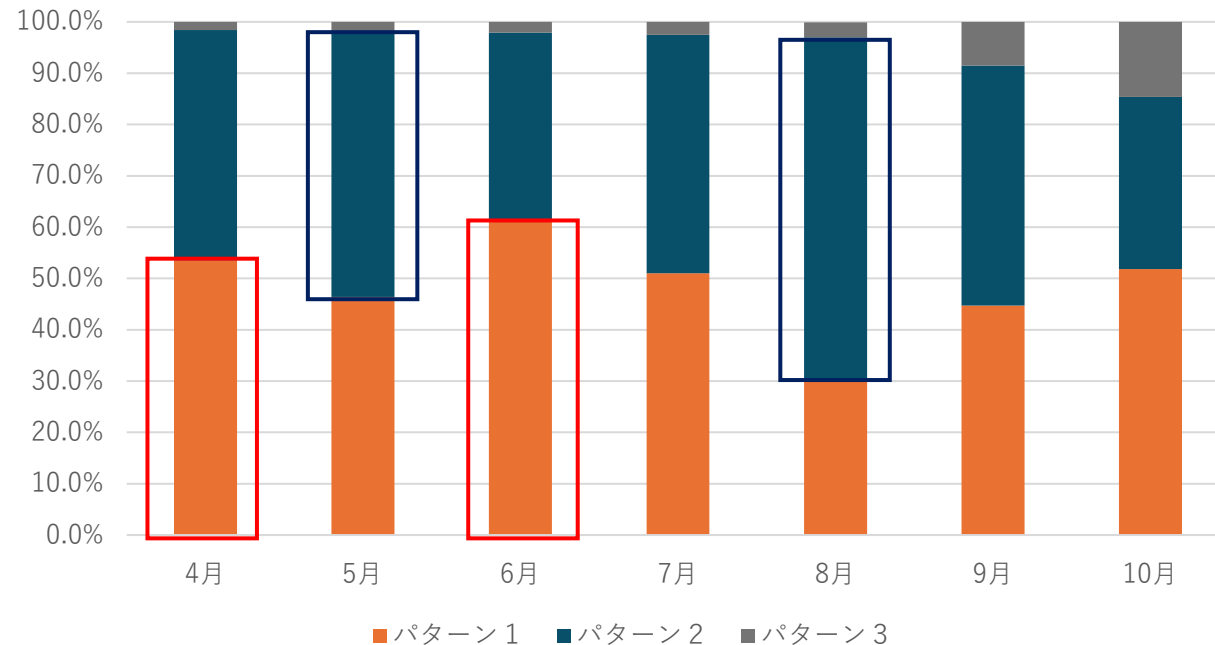
滞在ログは鳴門市を基準に比率を表示。

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）  
 作成データ：位置情報データを基に、万博および徳島県を訪問した人のデータを基に作成。  
 各パターンは、万博訪問初日と徳島県来訪初日の前後関係に基づき分類した。滞在ログは鳴門市を基準に比率を表示した。

## パターン別の徳島県月別訪問率

徳島県への訪問順序を月別に見ると、「万博を先に訪問し、その後に徳島県を訪れる」パターン1では、4月および6月に比較的高い。一方、「徳島県を先に訪問し、その後万博を訪問する」パターン2は、5月のゴールデンウィークおよび8月の阿波踊りの開催時期に高くなっている。9月、10月は、パターン1およびパターン3である同日訪問の割合が高くなる傾向が見られ、「ワンコインキャンペーン」や、万博来場が徳島訪問の契機となっている可能性が示唆される。

万博来場者における徳島県訪問順序の月別構成比（2025年）



対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

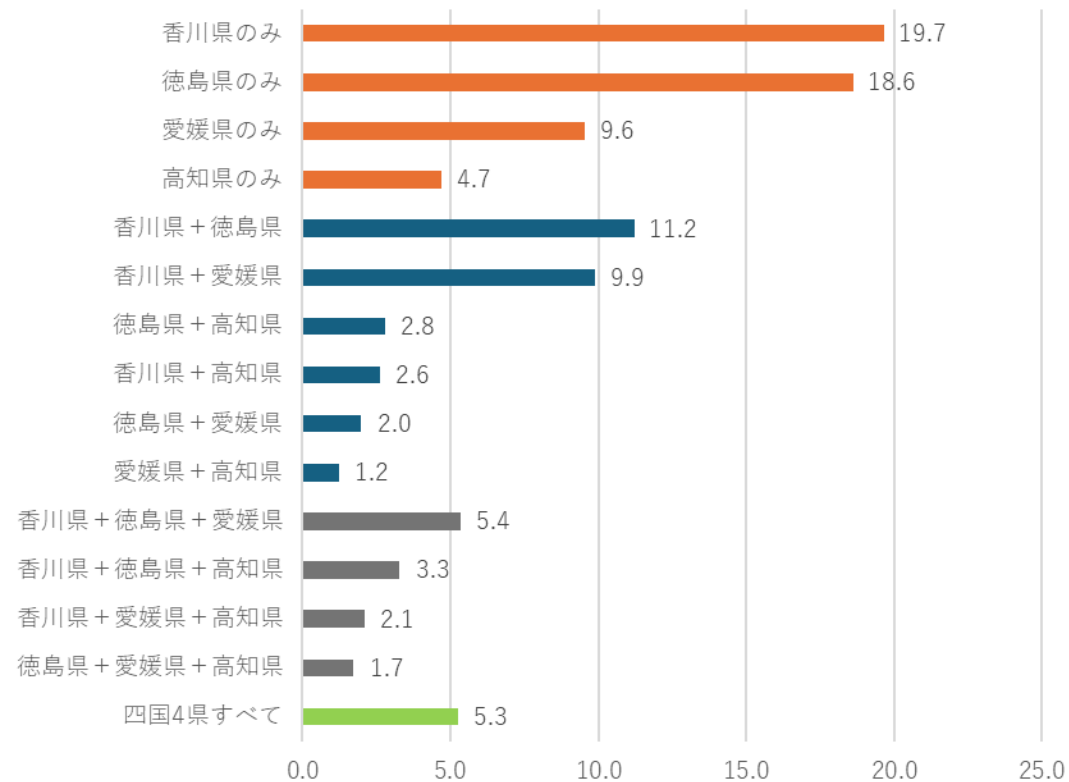
作成データ：位置情報データを基に、万博および徳島県を訪問した人のデータを基に作成。

各パターンは、万博訪問初日と徳島県来訪初日の前後関係に基づき分類した。

## 大阪・関西万博来場者における、四国各県訪問の周遊パターン

万博期間中の四国各県訪問者（四国各県非在住者）を抽出し、四国各県の訪問パターン（構成比）を分析した。その結果、香川県と徳島県が四国周遊のハブとなっていることがうかがえた。また、同年度には瀬戸内国際芸術祭も実施されており、香川県の訪問客には万博を契機とした来訪者に加え、瀬戸内国際芸術祭来訪者も一定程度含まれている可能性がうかがえる。

周遊パターン（四国非在住者、開催期間中）の構成比率（%）



対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）

作成データ：位置情報データを基に、万博および四国4県を訪問した人のデータを基に作成。なお、四国4県の非在住者のみで算出した。

## ②地域の事例 万博を契機とした、滋賀県への人流波及と宿泊行動に関する分析

## 地域資源の発信による来訪機会の創出

## 背景

万博来場者の近畿圏内の周遊が高まるなか、P16-21でも示したとおり、滋賀県は大阪府から比較的距離があるが、近畿圏の中でも高い訪問率となった。万博会場における発信が、滋賀県への来訪にどのようなにつながったかについて、位置情報データでの分析、および滋賀県へヒアリングを実施した。

## 分析対象

2025年大阪・関西万博を訪れ、かつ滋賀県を訪問した人を対象に、万博開催期間10月13日（月・祝）までの人流データを用いて、2024年の同時期のログデータと比較した。

データから  
見えた特徴

万博来場者における、2024年度・2025年度の位置情報の流れを確認したところ、甲賀市への訪問が前年比99.1%と高い数字となった。（P36）

## 取り組み

滋賀県では、万博会場内でのパビリオン出展や関連イベントを通じて、滋賀の自然や暮らし、文化といった地域資源を発信する取り組みを行った。甲賀市では、1970年大阪万博の「太陽の塔」の背面にある黒い太陽が同市の信楽で創作されたことを契機に、信楽焼をはじめとする伝統工芸やアートの展示、パビリオンへの資材提供など、万博会場において地域の魅力を多様な形で発信している。こうした取り組みが、万博来場者の滋賀県への訪問の契機のひとつとなり、万博を起点とした周遊が近畿周辺地域にも広がっていた可能性が示唆される。



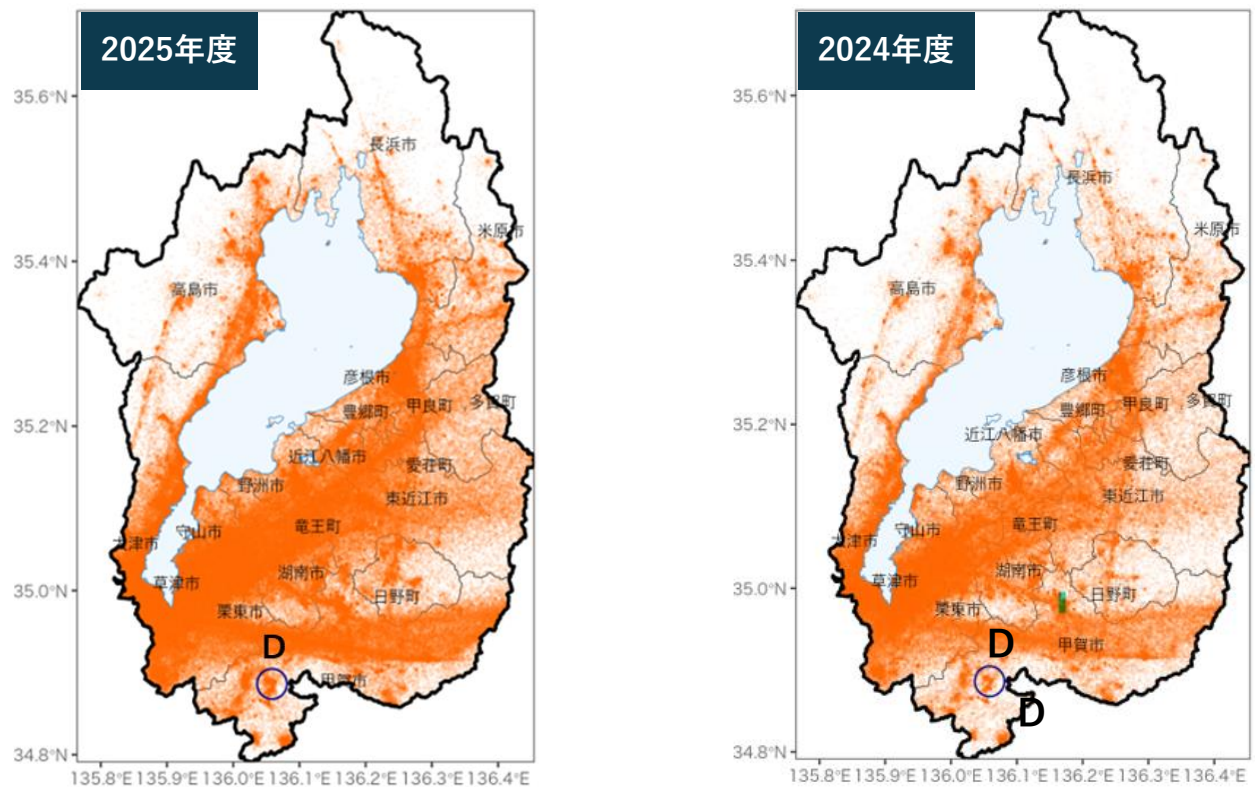
上：万博会場でのイベント。滋賀魅力体験ウィークでのたぬきの絵付け体験。



下：陶芸の森。（甲賀市）

### 滋賀県の滞在ログ数比較 9時から21時—2025年・2024年比較

万博来場者における2024年度と2025年度の滞在ログを比較したところ、滋賀県全体で分布の広がりや密度の増加が見られ、訪問者数の増加が伺える。また、甲賀市にある陶芸の森への訪問が前年比99.1%と高い伸びを示した。万博期間中に行われた滋賀県や甲賀市の取り組み（信楽焼をはじめとする伝統工芸やアートへの展示、パビリオンへの資材提供など）を通じた、会場内での地域ブランドの発信が、現地への訪問につながった可能性が示唆される。



太陽の広場（陶芸の森）



関西パビリオン滋賀県ブースの信楽焼スクリーン

※画像 滋賀県庁より拝借

	変化率 (2024年→2025年)
D 陶芸の森	+99.1%

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）、2024年4月13日（土）～10月13日（日）  
 作成データ：万博会場および滋賀県を訪れた人の滞在ログ数。滞在ログの観測点は、1時間当たりで集計し、その時間内の平均的な位置情報を用いた。また、観測点の大きさはその時間におけるログ数の多さを示している。2024年から2025年の変化率は、D地点から半径1km圏内に滞在ログが記録された人を訪問者として定義し、その人数を基に算出した。

## ②地域の事例 万博を契機とした、鳥取県への人流波及と宿泊行動に関する分析

## 地域資源の発信による来訪機会の創出

## 背景

鳥取県は中国地方に位置し、関西パビリオンに出展した府県の中でも比較的遠方の地域である。しかし、P19-20の結果から、「万博誘発・独立観光型」として、一定日数ラグがありつつも、来場者の鳥取県訪問につながった可能性がある。万博会場での発信が鳥取県への来訪にどのようにつながったのか、位置情報データによる分析および鳥取県へヒアリングを実施した。

## 分析対象

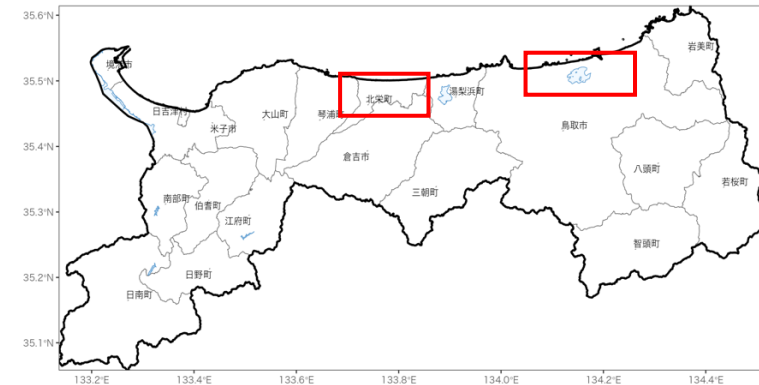
2025年に大阪・関西万博を訪れ、かつ鳥取県を訪問した人を対象に、万博開催期間10月13日（月・祝）までの人流データを用いて、2024年の同時期のログデータと比較した。

データから  
見えた特徴

万博来場者における、2024年度・2025年度の位置情報の流れを確認したところ、鳥取市・北栄町への訪問が高い数字となった。（P38）

## 取り組み

鳥取県は、万博開催期間中、関西パビリオンの鳥取県ゾーンにおいて、鳥取砂丘の砂を敷き詰めて再現した「鳥取無限砂丘」を展示し、来場者が実際に鳥取砂丘を体感できる没入型のプログラムを提供した。特に、虫眼鏡型デバイスを使って砂の上を歩きながら探検し、鳥取県の人気作品のキャラクターや観光地、特産品などを探す体験展示や、砂丘のプロジェクトンマッピングによる演出は、探究の面白さと学び、感動を兼ね備えた地域の魅力発信として大きな反響を得た。さらに、アフター万博として「とっとりサンドパビリオン」を境港市で展開しており、万博来場者の鳥取県への関心や来訪が継続している可能性が示唆される。



上：万博後半期の砂の持ち帰り「砂丘（サンキュー）！」「砂要る（スマイル）？」特別プレゼント。甲子園の土のように来場者が砂を袋に詰めて持ち帰った特別企画。

下：関西パビリオン内、鳥取県ゾーン。鳥取砂丘のプロジェクトンマッピングの様子。



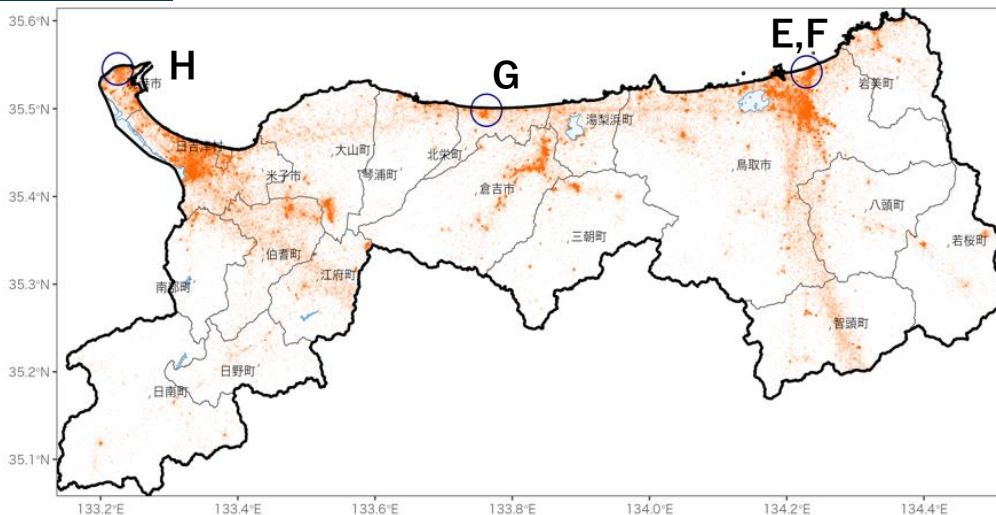
### 鳥取県の滞在ログ数比較 9時から21時—2025年・2024年比較

万博来場者における2024年度と2025年度の位置情報データを比較したところ、パビリオンで印象的に紹介されたE 鳥取砂丘および、F 砂の美術館への訪問が、前年比86.9%、82.8%と大きく増加した。また、市内から鉄道で約1時間西の北栄町に位置する、G マンガ・アニメミュージアムでも、期間中の訪問者が23.3%増加した。一方、さらに遠方に位置する米子市の、H 水木しげるロードでは訪問がやや減少しており、期間中は万博来場を目的とした旅行へ一部の観光需要がシフトした可能性が考えられる。

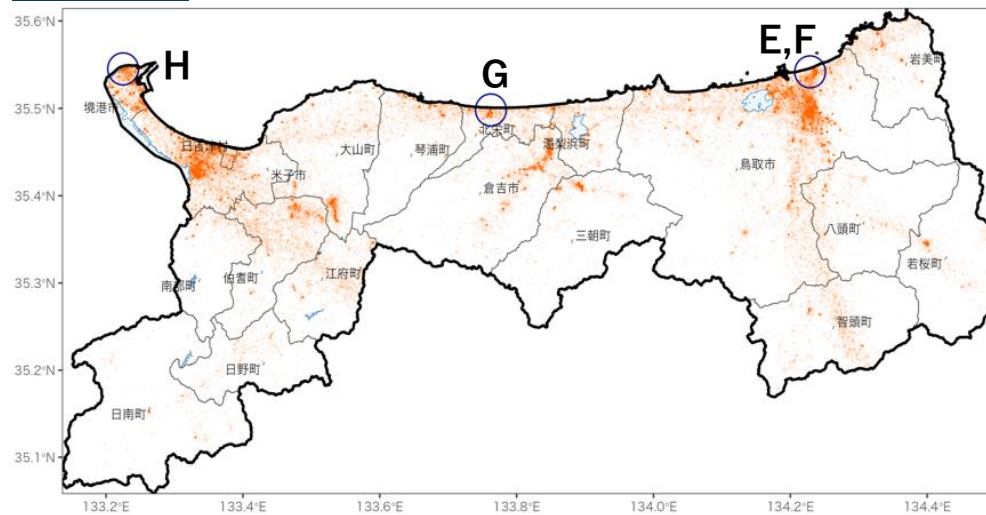
鳥取県における万博来場者層の滞在ログの分布（4月13日～10月13日）

	変化率 (2024年→2025年)
E 鳥取砂丘	+86.9%
F 砂の美術館	+82.8%
G マンガ・アニメミュージアム	+23.3%
H 水木しげるロード	-1.2%

2025年度



2024年度



鳥取砂丘



砂の美術館

対象期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月・祝）、2024年4月13日（土）～10月13日（日）

作成データ：万博会場および鳥取県を訪問した人の滞在ログ数。滞在ログの観測点は、1時間当たりで集計し、その時間内の平均的な位置情報を用いた。また、観測点の大きさはその時間におけるログ数の多さを示している。2024年から2025年の変化率は、EFGHの各地点から半径1km圏内に滞在ログが記録された人を訪問者として定義し、その人数を基に算出した。

## 今後の大規模イベント実施時に生かせるポイント

- ①開催地に合わせた、地域ごとに異なる来訪構造を踏まえた戦略設計
- ②開催地から遠方の地域では、自地域への来訪需要への影響も踏まえた観光施策の検討



2025年に開催された大阪・関西万博は、コロナ禍以降、日本国内で開催された最大級の国際イベントでした。分析の来場者構造では「ユニーク来場者」や「万博IDなしチケット来場者」の居住地から、近畿圏だけでなく全国規模で来訪を促すイベントとなったことがうかがえました。

また、周遊行動では、全国の宿泊旅行者数が減少傾向にあるなかでも、万博来場者層では開催地周辺を中心に近隣地域への来訪の広がりや新規の宿泊行動の増加が見られ、国際イベントが開催地にとどまらない広域的な移動や観光需要を生み出す可能性が示されたと感じています。

こうした大規模な国際イベントに合わせて、地域が独自の施策を組み合わせることで、波及効果をより高められると考えています。

①は、地域ごとに異なる来訪構造を踏まえた戦略設計です。開催近隣地域ではリピーターが多い一方、遠方地域では初回訪問を中心とした来場が多いなどの特徴が確認されており、近隣地域ではリピーター獲得に向けた施策、遠方地域では初回訪問を契機とした周遊促進といった施策が重要になることが示唆されます。

②は、大規模イベントの開催期間中、従来の観光来訪者がイベント開催地へシフトする可能性がある点です。特に開催地から遠方の地域では、自地域への来訪需要への影響も踏まえた観光施策を検討することが求められるのではないかと思います。

## 神戸大学大学院経営学研究科 藤原賢哉 教授

本研究は、大阪・関西万博という大規模イベントが、日本人の旅行行動にどのような影響を及ぼしたのかを、位置情報データを用いて分析したものです。近年、我が国の旅行市場では、宿泊費の高騰やオーバーツーリズムの問題が懸念されています。本研究では、そのような状況の中で、万博というイベントが旅行者の周遊行動にどのようなインパクトを与えたのかについて、位置データをもとに検証しました。具体的には、万博来訪との時系列関係の中で、宿泊先の配分構造がどのように変化したのかに着目し、万博を契機として新たに誘発された宿泊行動と、万博来訪に伴う宿泊先地域のシフトの双方を分析しました。また、各都道府県の観光施策との対応関係についても考察しました。

位置情報データなどのオルタナティブデータを活用することで、公式統計やアンケート調査では捉えにくい旅行行動の時系列的な変化や地域間の周遊構造を可視化できた点が、本研究の大きな特徴です。

## 同志社大学商学部 中岡孝剛 准教授

観光政策の効果を検証するためには、横断面データを用いた分析に加えて、時系列データに基づく旅行者行動の動的な分析が必要です。その点で、位置情報データは空間的・時間的に高い粒度を備えており、観光政策の効果検証にとって極めて有用なデータソースです。位置情報データを利活用することにより、より精度の高い実証結果に基づく施策の導出が可能になると考えています。本研究が、このようなデータのさらなる応用に貢献するものとなれば幸いです。